

公益財団法人 日本サッカー協会
2013年度 第6回理事会

協議事項

1. 八百長対策（インテグリティ協議会・プロジェクトの設立）の件

（協議）資料No.1

世界のサッカー界における「八百長」問題の深刻化を受け、インターポール（国際刑事警察機構）とFIFAは、これと対峙するための様々な活動を実施している。この一環として、さる7月8日、9日の2日間、JFAハウスにおいて日本の各関係者（警察関係者、文部科学省等の関係者含む）に向けた「八百長対策ワークショップ」を実施した。

同ワークショップでは、インターポールおよびFIFAから日本サッカー界に対して「八百長を防止、これを絶対に起こさないためには、関係する様々なステークホルダー（サッカー界内だけでなくサッカー界外の警察等も含む）が一丸となって取り組まなければならない」旨の提言がなされた。この重要性については、同ワークショップに参加した各ステークホルダーの代表者の間にて共通に認識され、総意を得た。

<提案内容>

日本サッカー界において八百長を防止し、絶対に起こさないようにするために、サッカー界内外の関係者が一つになって議論し、具体的施策を推進していく仕組み（以下2つの組織）をつくりたい。

1. インテグリティ協議会
2. インテグリティプロジェクト

各組織の概要等は以下の通りとする。

1. インテグリティ協議会**【組織の概要】**

サッカー界とサッカー界以外のステークホルダー間の「連携」を図る組織

【目的／機能】

- ✓ 八百長に関する相互の情報共有
- ✓ 警察との連携
- ✓ その他関連組織（文部科学省等）との連携
- ✓ 国レベルでの対応が必要なこと（法整備など）に関する議論
- ✓ 関係各所とのコネクションづくりと関係維持 等

【構成】

サッカー界内外の様々なステークホルダーにて構成される

- メンバー
 - ・警察庁、警視庁、文部科学省、日本オリンピック委員会(JOC)、スポーツ振興センター、の各代表者
 - ・Jクラブ、Jリーグ、JFL、日本プロサッカー選手会(JPFA)、JFA、審判委員会、技術委員会の各代表者
- 幹事
 - JFA事務局、Jリーグ事務局

2. インテグリティプロジェクト

【組織の概要】

サッカー界内の各ステークホルダーが連携し、施策を具体的に実施するための実行部隊

【目的／機能】

八百長対策に関するサッカー界内における各種施策の審議、決定及びその実施

※サッカー界としての「全体最適」を図り、具体的施策の推進する実施主体となる

<議論・整理・実行すべき課題(一例)>

1) 規則・制度設計

規程、選手契約書、行動規範、誓約書等の整備

2) 予防（教育施策）

選手、審判、その他関係者に対する教育・啓発、「教育者（伝達者）」の育成

3) 情報共有

「情報」の共有方法の検討と実施、

4) 事件時の対応

事件発生時（または事前に兆候が検知された場合）の対応

5) 調査／対策

通報の受け付け、調査・研究の実施

6) 監視／検知

賭博市場の監視

7) 外部との協力／調整

国内関連組織（警察等）、国外関連組織（FIFA、インターポール等）との協力

【構成】

サッカー界内の関係するステークホルダーにて構成される

▶ メンバー

Jクラブ、Jリーグ、JFL、JPFA、JFA(事務局)、審判委員会、技術委員会

当理事会にて承認を受けた後、両機関のメンバーを選定し、次回（11月）理事会に諮るものとする。

2. フットサル加盟チーム登録制度の件

（協議）資料No. 2

2012年9月および2013年1月理事会において、現行の「個人登録」と「大会毎のチーム登録」から構成されるフットサル登録規程を廃止し、2014年4月より新たに「加盟チーム登録」と「エンジョイプレイヤー登録」を設けることが決まった。

これに伴い、「加盟チーム登録」に関し、フットサル加盟チームの種別、義務、本協会の登録料等について、別紙資料の通り定めたい。

3. U-12年代グラウンドデザイン「JFA フットボールフューチャープログラム／トレセン研修会 U-12」の件

「U-12年代のグラウンドデザイン」によるゲーム環境の改革において、年間を通じたリーグ戦の整備をはじめ、全日本少年サッカー大会やJFA 地域ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会の開

催時期見直しを行ってきた。

2015年の全日本少年サッカー大会の冬期開催と並行して新たに実施するトレセン研修会（仮称/World Cup Development Program）を、以下の通りの名称ならびに実施概要にて開催したい。

- 名 称 : JFA フットボールフューチャープログラム/トレセン研修会 U-12
- 開催時期 : 8月第1土曜、日曜を含む5日間
- 開催場所 : 未定
- 内 容 : 選手 /ゲーム（対抗戦）、トレーニング、レクチャー等
- 帯同指導者 /レクチャー、実技講習会等
- 審判 /レクチャー、ディスカッション等
- 保護者・視察者/レクチャー
- 参加チーム : 48チーム（東京都×2チーム、道府県×1チーム）
- 参加人数 : 都道府県トレセンU-12選手16名ならびにスタッフ3名
JFA関係者ならびに運営スタッフ 総勢約1,000名

【参考】JFA主催U-12年代関連行事 開催時期

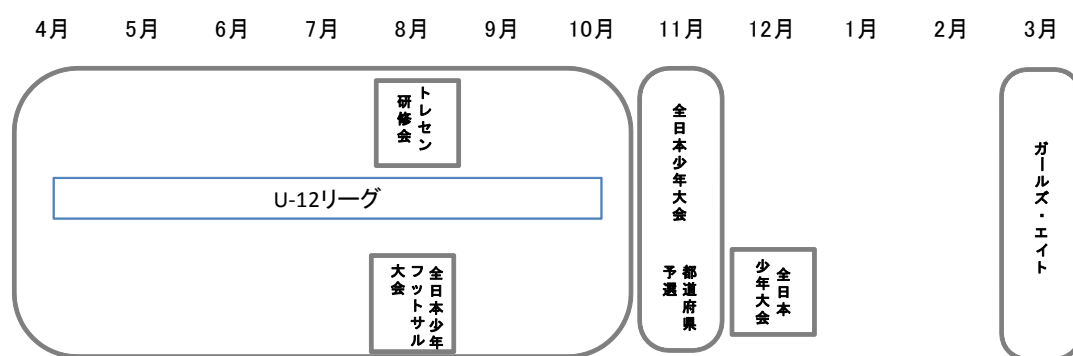
〈行事名〉	〈開催時期〉
・全日本少年サッカー大会	12月下旬
・こくみん共済U-12サッカーリーグ	4月～10月（※1）
・全日本少年フットサル大会	8月（※2）
・JFA地域ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会	3月（※3）
・トレセン研修会U-12	8月上旬（※2）

※1 開催時期は原則。始期、終期とも都道府県により異なる。

※2 2013年度第6回（今回）理事会協議事項

※3 3月の土日開催、日付は地域により異なる。降雪地域は別途検討。

～ カレンダー / イメージ ～



4. 全日本少年フットサル大会開催時期の件

本協会が推進するU-12年代のゲーム環境整備に伴い、全日本少年サッカー大会を第39回大会（2015年度）より冬期（12月下旬）に開催することが決定している。

同年代の選手が出場する標題の大会については、選手育成の観点から全日本少年サッカー大会より早期となる夏期開催とすることでサッカー技術向上と8人制サッカーとのスムーズな連携に

効果的である。従って、2015年以降の本大会開催時期については、予選を含めたスムーズな運営ができる8月中旬としたい。

- 第24回大会 2015年1月4日～6日
- 第25回大会 2015年8月中旬

<参考>

- 1991年12月に「全日本少年ミニサッカー大会」として第1回大会が行われ、2013年で第22回目。
- 1993年 第2回大会より、毎年1月4日～6日に開催。
- 1998年 第7回大会までは東京都北区滝野川体育館ほか4会場で分散開催。この年からハウス食品株式会社様に特別協賛をいただき、「バーモントカップ」の名称に変更。

年月	サッカー	フットサル
2008年	「2005年宣言実現に向けた育成年代ゲーム環境改革ロードマップ」策定。	
2009年4月	「4種年代リーグ」スタート。全国の生活圏で日常的にリーグ戦を行う環境を整備。	
		フットサル大会部会にて、全日本少年サッカー大会の開催時期が変更となる場合は、4種年代全体のカレンダーを考慮しフットサル大会の開催時期を変更することを了承。
2010年4月	2011年度よりJFA主催試合を8人以下の少人数制で行うことを理事会にて決定。	
2011年8月	全日本少年サッカー大会を、8人制で実施。	
2012年12月	全日本少年サッカー大会を2015年から冬季に開催することを理事会にて決定。	
2013年5月		フットサル委員会にて、バーモントカップの開催時期について議論
2013年7月		フットサル委員会地域部会にて、バーモントカップを2015年8月に実施することについて、都道府県予選の開催について支障がないことを確認。

5. 基本規程改正の件

(協議) 資料No.3 ①②

1. 基本規程改正

<概要>

- ・2014年からフットサルのチーム登録制度が開始されること、また女子登録制度が変更される

ことに伴い、該当部分を改正したい。

- ・本来であれば、基本規程は必要最低限のことを規定し、各論はそれぞれの個別の規程で定めるべきものであるが、現行の基本規程は様々な項目が過剰に規定されている。
- ・よって、選手の登録・移籍等を定めている基本規程第4章及び第5章を基本規程から独立させ、個別の規則化を行う。
- ・施行日は2014年4月1日付とする。

<主な改正点>

- ・フットサルチーム登録制度の開始と女子登録制度の変更等に伴う基本規程の改正
- ・基本規程第4章及び第5章部分を「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」に独立
- ・「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」に倣い、「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」の制定

2. 「フットサル登録規程」の廃止

上記「フットサル選手の登録と移籍等に関する規則」の制定に伴い、「フットサル登録規程」を2014年3月31日付で廃止する。

6. 第28回ユニバーシアード競技大会(2015/韓国光州)サッカー男子スタッフ選任の件

(協議) 資料No. 4

第28回ユニバーシアード競技大会(2015/韓国光州)サッカー男子スタッフについて、全日本大学サッカー連盟の推薦に基づき、次の通り選任したい。

【監督】 神川 明彦 (かみかわ あきひこ)

生年月日：1966年7月9日

所属：明治大学体育会サッカー部監督

指導者ライセンス：S級コーチライセンス

略歴：資料参照

【コーチ】 松本 直也 (まつもと なおや)

生年月日：1971年7月18日

所属：桃山学院大学体育会サッカー部コーチ

指導者ライセンス：S級コーチライセンス

略歴：資料参照

【コーチ】 島岡 健太 (しまおか けんた)

生年月日：1973年7月26日

所属：関西大学体育会サッカー部監督

指導者ライセンス：A級コーチジェネラルライセンス

略歴：資料参照

7. プレジデント・ミッションの件

I. 2014年度「M8. リーグ戦の推進と競技会の整備・充実」支援制度について

2013年度までの支援制度対象である以下①～④のリーグに加えて、新たに⑤U-13地域リーグも対象として、支援制度を実施する。

予算総額は約2.1億円。(うちU-13地域リーグは約0.1億円)

なお、⑤U-13 地域リーグについては、2014 年度より運営管理主体を J リーグから JFA に移管し、M8 支援制度に盛り込むことを、平成 25 年度第 4 回理事会にて承認済み。

● 支援対象リーグ

- ①U-15 地域リーグ
- ②U-18 都道府県リーグ
- ③U-15 都道府県リーグ
- ④U-10/U-11/U-12 リーグ
- ⑤U-13 地域リーグ ※新規

● 補助金支給方法

- ① U-15 地域リーグ/⑤U-13 地域リーグ → 地域協会に包括支給
- ② U-18 都道府県リーグ/③U-15 都道府県リーグ → 都道府県協会に包括支給
- ④ U-10/U-11/U-12 リーグ → 都道府県協会に個別支給

II. 2014 年度「M5. エリート養成システムの確立」支援制度について

2012 年度より育成・強化に関わる事業への補助金制度を包括にし、47F A に交付する仕組みとしてきた。支援制度の趣旨に合致した取り組みが多く、有益な補助金として各都道府県 F A で活用されていることから、引き続き支援を継続することとしたい。

1) 内容

- ①対象期間： 2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
- ②予算： 113,400 千円

2) 目的

「M5. エリート養成システムの確立」関連活動（一貫指導体制構築やユースダイレクターならびにユース部会の活動等）の更なる推進

8. U-21 日本代表（リオデジャネイロオリンピック 2016）監督選任の件

（協議）資料No. 5

リオデジャネイロオリンピック 2016 を目指す U-21 日本代表の監督を次の通り選任したい。
尚、当監督は FIFA ワールドカップ 2018 を目指す日本代表チームのコーチを兼務する。

【氏 名】手倉森 誠（てぐらもり まこと）／45 才

【契約期間】2014 年 1 月 2 日～2016 年 8 月 31 日

【指導者ライセンス】S 級コーチライセンス

【略 歴】資料参照